

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム和み		
所在地	周南市大字湯野4298-1		
電話番号	0834-82-1010	事業所番号	3571500291
法人名	医療法人社団 生和会		

訪問調査日	平成 19 年 9 月 12 日	評価確定日	平成 20 年 5 月 14 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人 非常勤 1 人 (常勤換算 15.5 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨(S) 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 43,000 円	敷金	有 / 無	円
保証金	有 100,000 円	償却の有無	無(退居時の清掃代のみ)	
食費	日額	1,500 円		
	月額	21,000 円		
その他の費用	内訳 シーツレンタル1日100円(使用者のみ)、おむつ実費、共益費1日700円			

(4) 利用者の概要 (9月12日現在)

利用者数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
	要介護 1	6人	要介護 4 1人
	要介護 2	9人	要介護 5
	要介護 3	2人	要支援 2
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 湯野生和会病院、周南市立新南陽市民病院
	歯科 かねおか歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	毎日9時から19時の間は入浴可能で、利用者の希望する時間にゆっくりと入れる支援をしています。「住み慣れた地域の中で、たくさんの笑顔と自信、共に暮らし続ける場を提供します」という理念を全職員がつくりあげて共有し、利用者はその人らしさを尊重し、職員は自然体で理念に沿ったケアを実践しています。
(特徴的な取組等)	事故防止について、一人ひとりの危険性や支援の違いを把握して共有し、個別マニュアルを作成して防止に努めています。特に、転倒事故防止については、記録用紙を作成(発生状態、症状、発見者など)して冷蔵庫に貼り、良くなるまでの経過を全職員で見守る工夫をしています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	法人の栄養士に月1回、3食の検食をしてもらい、献立表のチェック、栄養のバランス等の助言を受けつつ、よりよい食事づくりに取り組まれています。
(今回の自己評価の取組状況)	全職員で自己評価を実施し、職員一人ひとりが向き合うことで、自分を振り返り初心に戻る場として捉え、サービスの質と向上に努めています。
(運営推進会議の取組状況)	市の担当者、民生委員、警察官、消防署員、利用者、家族、法人代表などのメンバーの参加で、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、サービスの実際や行事報告をし、メンバーから質問、意見、要望などを聞き、サービスに活かすように取り組んでいます。
(家族との連携状況)	定期的に利用者の日々の様子(食事、入浴、排泄、睡眠等)、体調の変化、コメント入りの写真、預り金の出納明細書(コピー)等を送付し、家族の訪問時や電話連絡などで意見や要望を聞いたり、気づきを伝えたりしておられます。職員の異動はユニット新聞に掲載され、3ヶ月に1回のケアカンファレンスには家族も参加しておられます。
(地域との連携状況)	積極的に地域行事に参加され、散歩、買い物、畑作り等を通じて、地域の人々と交流され、花や野菜などの差し入れで顔なじみの関係ができています。また、地域向けホームだよりを公民館、商店、病院、郵便局等に貼ってもらい、ホームへの理解の周知に努めおられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「住み慣れた地域の中で、たくさんの笑顔と自信、ともに暮らし続ける場の提供をします」という理念を全職員でつくりあげており、地域との関係性が深まるよう取り組んでいる。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関や事務所に理念を掲示し、リーダー会議やユニット会議等で理念を共有し、職員は日々のケアに活かしている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域行事への積極的な参加、買い物、散歩などで、近所の人々との交流があり、花や野菜などの差し入れで顔なじみの関係ができています。地域向けのホームだよりを発行し、公民館、近くの商店、郵便局、系列病院などに掲示してもらっている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員で自己評価を実施し、職員一人ひとりが向き合うことで、自分を振り返り初心に戻る場として捉え、サービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の結果をミーティングで話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>市の担当者、民生委員、警察官、消防署員、利用者、家族、法人代表などのメンバーの参加で、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、サービスの実際や行事報告をし、メンバーから質問、意見、要望などを聞き、サービスに活かすように取り組んでいる。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に市の担当者の参加があるが、市と共にサービスの質の向上に取り組むまでには至っていない。</p>	<p>○ ・行事の参加要請、外部評価結果の相談などの連携の工夫</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	預り金の出納明細表のコピー、日々の様子(食事、入浴、排泄、睡眠)、体調の変化、コメント入りの写真数枚を、毎月家族に送付している。職員の異動については、訪問時や電話、毎月発行しているユニット新聞の中で報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時に声かけしたり、電話連絡などで気軽に意見が言えるようにしている。相談、苦情を受け付ける窓口及び担当者を明示し、苦情処理の手続きを明確にしている。外部機関の明示、第三者委員の選任はしていない。3ヶ月に1回、担当者会議で家族と話し合っている。	○ ・第三者委員の選任 ・外部機関の明示
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤15名、非常勤1名の体制で、全職員が話し合い利用者や家族の要望などに対応できる勤務シフトにしている。職員の急な休みなどには、勤務交代や管理者で対応できるよう、柔軟な体制が取れている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設当時の馴染みの職員もおり、新人職員が馴染むまでは、管理者や先輩職員の指導を受けながら無理のない勤務体制で、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部研修の機会を提供しており、ミーティングで伝達研修もし、内部研修や日常の働く中で学ぶ機会を作っている。新人職員は各ユニットリーダーから学んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県グループホーム連絡会の研修、ブロック研修、近隣グループホーム同士の交流学習会等で、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用開始前に、本人や家族が1~2回ホームを訪れ、馴染みながら利用している。家族の要望で、やむを得ず馴染むことなく直ぐ利用されることもある。</p>	<p>○ ・本人の納得と家族の理解が得られるような工夫と検討</p>
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者を「お客さん」にしないように一緒に過ごし、利用者の思いを共感し、支えあう関係になるよう支援している。調理が得意な方が楽しみながら、食事づくりを手伝っている様子が伺えた。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式を使用し、利用者の思いを日々の係わりの中で把握したり、家族から情報を得るなどで、関心を持って日常の支援に取り組んでいる。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを月1度開催し、利用者の課題を話し合っている。介護計画のベースは担当者が作り、職員や家族が参加する会議で、意見、要望を聞き、アイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護記録簿にケアプランを記載し、共有している。1ヶ月ごとに評価見直しをし、変化が生じた場合は、担当者、管理者、ケアマネジャー、家族で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院の送迎や援助、理美容院の送迎、ふるさと訪問や行きたい所へのドライブ等の外出支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診希望者は、引き続き受診できるように職員同行の移送の支援をしている。家族に受診結果を伝えている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療機関、家族と話し合い、家族の意見、本人の思いを大切にしている。「支援をしていたらターミナルだった」というケアを目指して職員と話し合っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	目立たずさりげない言葉かけや対応をしており、記録等の個人情報にも考慮されているが、ファイルや面会簿の取り扱いに不十分な面もあった。	○
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝の時間の送り方や食事の時間も利用者のペースで、散歩やお喋りを優先することもあり、一人ひとりの希望にそった支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員と一緒に調理をされており、食卓を囲んでお喋りしつつ楽しく食事をされている。片付けもその人に応じた片付け方で、ゆっくりと見守り支援をされている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日9時から19時まで可能で、朝風呂に入る人、シャワー浴、下半身浴等、利用者の要望に対応しており、ゆっくりとその人らしい入浴を楽しめる支援をしている。訪問時には、朝風呂を楽しまれた利用者が気持ちよさそうにしていた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編み物、習字、ことわざ遊び、洗濯物たたみ、調理、配膳、後片付け等の活躍できる場面づくり、カラオケやテレビを見たり気晴らしの支援もしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	草取り、畑作り、季節ごとの花見、犬との散歩、買い物等の支援や自宅までのドライブや地域の美容院へ出かける等の支援もされている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束、スピーチロック、ドラッグロック等を全職員は研修を受け、正しく認識して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関に鍵をかけず、外出を察知した場合は後から職員がついていき、時には近所からの連絡もある。職員が常に意識的に利用者の所在確認の徹底をするようにしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態に応じた事故防止のマニュアルを作成し、対処方法を学んでいる。事故、ヒヤリはと報告書もきちんと記録している。特に事故のあった場合には、転倒事故記録用紙を作成して冷蔵庫に掲示して、利用者が完治するまで掲示して、注意を共有している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成して急変や事故発生に備えているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は行われていない。今年には救急救命法も受講を徹底するように計画している。	○ ・定期的な訓練の実施 ・全職員の救急救命法研修の受講
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	夜間想定を含めた火災訓練や避難訓練を消防署と合同で行っているが、地震や水害について地域の人々の協力を得られる働きかけはされていない。	○ ・地震、水害等にも警察、消防、地域の人々と連携を得られる働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬剤情報書を通じて、薬の目的や副作用を理解している。名前の確認をして手渡しし、服薬を確認し、異変がある場合は、個人記録に記入する仕組みになっている。ケアチェック表で状態を把握し、必要な情報は、医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに合ったケアを行い、口腔内の状態の把握に努めている。歯ブラシの洗浄、保管、義歯の消毒の支援をされている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人の栄養士が1ヶ月に1度、3食の検食をして、カロリーやバランスの指導、献立表の助言をしている。食事量、水分量や排泄についての記録もされ、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援に取り組んでいる。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成してファイルし、全職員が学習し、予防を実行している。発生した際には、看護師等の指導を受けて、統一した対応を行えるように共有している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ソファや椅子、畳の間もあり、利用者が思い思いの姿でゆっくりと過ごせる居場所づくりの支援をしている。大きな窓からは山々や田んぼ、ハウス栽培等が見られ、夏の陽射しにはブラインド等で調整したり、花が活けられたり心地良い空間となっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	位牌、遺影、タンス、絵画など本人の好みの物や使い慣れたものが持ち込まれている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム和み
所在地	周南市大字湯野4298-1
電話番号	0834-82-1010
開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (8 月 現在)

ユニットの名称	キラキラ
ユニットの定員	9 名

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	全職員にて、地域の中で生活する事の大切さをもとに、サービス理念を話し合い作成した。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の一番目に触れる場所に理念の掲示を行い、リーダー会議、ユニット会議の際には、必ず原点はどこにあるのかを念頭に置き、カンファレンスをおこない、実践に向け取り組んでいる。	
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	毎日の支援を、運営理念に基づいたものになるよう、職員にカンファレンス、ミーティング時には、常に伝えている。	
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	運営者に管理者は、責任を任されており、適切なアドバイスをもらいながら、全職員と共に、日々サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域密着型サービス理念の説明を、家族へは入所時、契約書、重要事項説明書にて説明し、地域へは、運営推進会議にて地域代表者に説明行っている。その他、地域向け新聞を、発行している。	
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	町内会加入は行ってないが、地域行事への積極的な参加や、散歩や買い物、外食など、地域施設を利用し、顔なじみの関係が持てるよう努めている。ご近所の方からは、季節の野菜や花など、差し入れ頂き、利用者の方も喜ばれている。	
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	決められた時間に、決められた事への参加は、その時々々の認知症状により、困難な状態のため、無理をせず、自然な形で交流を図っている。	
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	提供する側からではなく、何を求められているかを、話し合っているが、取り組みには至っていない。	グループホームの特性を、地域の方や、利用を望まれている方に、知って頂ける機会を持ち、望まれていることを知っていくことから始める。(中学生体験学習など)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をもとに、管理者、ケアマネ、各ユニットリーダー会議を開催し、グループホームの意義や、考え方をもち、個々の支援について、即座に話し合い、各ユニットにて評価を行った。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況や、施設内での行事等の報告を行い、家族や民生委員などより、意見を頂き、これからのサービスに活かせるように努めている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	取り組みはなされていない。	市担当者とのサービスの質の向上に向けた取り組みの検討を行う。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者が、勉強会には参加しており、現時点では、必要な方が、おられない。	必要が生じた場合の対応方法を学んでおく。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について学び事業所内で虐待が見過ごされないように全職員で注意を払っており、虐待は行われていない。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	アセスメント、契約時、契約解除時には、十分な説明を行い、家族の理解が得られるようにしている。	ご家族の方とのコミュニケーションを大切に、想いが汲み取れるように、努力していく。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	少しの時間でも1対1のコミュニケーションを図るようにし、職員、利用者の区別なく、共同生活者となるよう、雰囲気作りを行っている。介護記録の中にも、本人の言葉を残すようにし、個人記録への記入も行き、ケアプランに生かしている。	自然な形で行っていききたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	金銭管理の状況や、体調の変化、日々の様子を各担当者にて、記載し、毎月家族へ送付している。職員の移動についても、ユニット新聞の中で、報告を行っている。状態の変化あった場合には、即座に電話連絡おこなう。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	いつでも要望時には、情報開示行っている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関、事務所前に苦情相談窓口を設置し、いつでも苦情等の対応が出来るようにしている。3ヶ月に1度の担当者会議の際、家族の想いを、じゅうぶんな話し合いの時間を持ち、受け止めるようにしている。医療法人の相談室にも窓口を置いている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する事、利用者状況、サービスの実情に関し、必要時職員の意見の聞き取りを行い反映させている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況によって、勤務時間の変更を行い、夜勤帯などの職員確保については、急な利用者への対応も出来るよう、十分に調整行っている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	自己都合による退職もあり、職員の入れ替わりがあるが、職員からの要望を十分に聞き入れ、勤務体制の調整を図り、利用者へのダメージを最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各自の立場、経験や習得度の段階に応じた勤務内外部研修参加を行っている。新人職員に関しては、各ユニットリーダーについて支援を学んでいる。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	ユニットの特性を見て、多様な資質を持った職員配置し、必要あれば、ご家族へも説明行いながら、移動もしている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会の勉強会や、近隣のグループホーム同士の研修会、外部研修へ参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		目標評価制度の導入の検討。 各種講習会へ全員参加のための体制の構築。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		賃金テーブルの見直し(給与体系)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		毎日の生活の中で、蜜に会話が出来、本心が聞けるような関係作りが出来る様努めている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		家族の理解を得ながら、利用前の対応について、進めていきたい。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		運営推進会議などを利用し、福祉施設の利用状況の現状と、利用希望者の把握に努めたい。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族の理解を得ながら、利用前の対応について、進めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		出来ることへの過剰支援を行うことがあり、利用者の生きることへの感性を大切にすることを、本人自らの主体性が生きてくる支援方法を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		利用者の方から、家族へして差し上げられることが何かないのか考えている。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		利用者の方から、家族へして差し上げられることが何かないのか考えている。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		職員は、常に利用者に関わり、利用者同士が自然に助け合えるよう、場面の提供を行っている。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		電話や、訪問など行い、その後の様子を伺っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		個人対職員で、ケアが出来る様、努めたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		日々の生活の中で、コミュニケーションを、より多くとっていける体制を作るために、業務内容の変更を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に一度のカンファレンスの開催や、3ヶ月に一度、担当者会議を家族、担当職員と開催し、ケアプランを見直ししているが、変化が生じた際には、状況を御家族へ報告し、臨機応変に新たな計画作成を作成している。	コミュニケーションを図ることにより、気軽に意見が出せるように、日々努めている。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画作成している。	月に一度のカンファレンスの開催や、3ヶ月に一度、担当者会議を家族、担当職員と開催し、ケアプランを見直ししているが、変化が生じた際には、状況を御家族へ報告し、臨機応変に新たな計画作成を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録とは別に、個人記録のファイルの作成をしており、日々の行動や、気づきなど記入することにより、カンファレンスの際、支援方法の見直しに努めている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体が医療法人のため、緊急時の対応として、短期入院など御家族やドクターと話し合いの上、行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の希望により、地元の公民館で開催されている、生花に、認知症理解の上、参加させていただくなど、協力を得ている。	運営推進会議を行うことで、グループホームの特性を、地域の方や、利用を望まれている方に、もっと知って頂けるような、かたちをとって行きたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	希望があれば、日時関係なく、ありのままの和みでの生活を見て頂いている。和みの生活や、相談窓口の連絡方法などを盛り込んだ新聞を作成し、公民館に掲示させていただいているが、地域への開放へは至っていない。	グループホームの特性を、地域の方や、利用を望まれている方に、もっと知って頂けるような、機会を持ち、望まれていることを知っていくことから始めていく。(中学生体験学習など)
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他施設の要望に対して、施設との連絡調整行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		日々状態が変化していく中で、本人にとって、ベストな環境が、グループホームなのか、他機関なのか、連携の下、支援を考えていながら、必要な知識、技術の習得に努める。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人的な介護の対応の場合、本人のみ解るように声掛けを行い、介護されている事が、他者へ分からないように対応しており(持ち帰り、収集癖、汚染時等)記録についても個人情報として、扱っている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>状態を把握し、個々に合わせた声掛けを行うことで、自らの意思で決定されるように支援を行っている。</p>	<p>職員により、能力が違う為、全職員が理解できるよう、取り組んでいきたい(新人職員など)</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>個々にあわせた声掛けを行い、「やらされている」という感覚でなく、自ら「やろう」と思える気持ちを大切にしている。家事全般、職員のみで行わず、共に暮らす生活者として、一緒に行っている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>毎日、利用者の方と共に、業務や時間に追われるのではなく、散歩や談話等を優先した生活を送ることにより、不穏の軽減になっている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意思と、理解のある近所の美容院や、訪問利用など、家族のご協力を得て支援を行っている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の方から、「私がやってあげなければ！」という思いを引き出せるように対応。スタッフが出来ないフリや、忙しくて多まわらないといった状況を作り出す。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>食事の分量や、カロリーをコントロールすることにより、柔軟なおやつ対応を行いたい、一回一回の食事に対し、不満が多い為、栄養過多による体重増加や、健康維持と、嗜好の支援(特に菓子類)について、なかなか困難なものがある。</p>	<p>色合いや、器の使用によって、資格での満足や、楽しい雰囲気での食事により、精神的な満足が得られるよう、取り組んでいる。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄表の作成を行い、排泄のパターンをスタッフが把握し、個々にあわせた、トイレ誘導を行うことにより、紙パンツや、パットの使用を、必要最低限にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		職員により、能力が異なるため、全職員が理解できるよう、取り組んでいきたい。(新人職員など)
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		個々の支援として、対職員の時間や、日程が取れるような対応をしていきたい。
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		個々の支援として、対職員の時間や、日程が取れるような対応をしていきたい。
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		家族からの、電話や手紙が主であるが、利用者の方から、誕生日のお祝いのメッセージなどを、郵送していく。
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年に3度の家族参加型行事を計画、実行しており、契約時にもお話しをさせて頂き、行事2ヶ月前には日程の調節の為、連絡を行い、参加の呼びかけている。約8割の家族の参加がある。		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する講習参加にて全職員へ徹底し、身体拘束抑制を行わないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が、利用者に対する心理的な不安、閉塞感など弊害を理解し、ドアに鈴をつけるなど、工夫を行い、所在確認の徹底を図ることにより、施錠は一切行っていない。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員と利用者の方が、密接な関係になることで、利用者の方から職員の側で過ごされることが多い。職員一人ひとりがどの位置に居れば様子や、状態を把握できるか常に声を掛け合い、考え、行動するようにしている。		職員により、能力が違う為、全スタッフがお互いに安心して、任せ、任せられるように取り組んでいきたい。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	例えば、化粧水、乳液、ファンデーションなど、毎日の確認を行い、女性としての楽しみを持っていただくなど、本人の意思を確認しながら安全を保てるよう、職員の決まりごとの徹底の実行。はさみなど刃物に対しては、必要時に手渡す。		職員全員が、個々の認知度、行動の把握、を行うことで、柔軟な対応をしていく。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の危険性をしっかりと把握し、未然に防ぐ為の情報交換を常にして、事故防止に努めている。		職員により、能力が違う為、全スタッフがお互いに安心して、任せ、任せられるように取り組んでいきたい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	他グループホームとの勉強会にて、ドクター研修への参加や、自グループホームにて、マニュアル作成し、応急処置、緊急時に備えているが、定期的な訓練は行っていない。		職員により、能力が違う為、全スタッフがお互いに安心して、任せ、任せられるように取り組んでいきたい。(新人職員など)
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	インシデント、アクシデントは書類の提出や、必ず全職員にて対応を考え、改善に努めている。		ヒヤリ、ハットの、認識の徹底。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	人数の少ない、夜間を想定した、消防署員参加の総合訓練や、避難訓練など、利用者の方と共に行い、どのような、行動を起こされるか、想像を広げ、適時の対応について、話し合っている。		運営推進会議を利用し、災害時、地域の方の協力が得られるよう、どの様に交流を図っていけばよいか考えていきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	3ヶ月に一度の担当者会議への参加時や、月時報告書にて、現状に基づき、起こりうるリスクについての説明のもと、家族、本人の想いを受け入れ、グループホームでの対応を話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個人記録を記入し、日々の状態を把握する事で、体調変化等、少しでも異変がある場合、管理者、職員に声を掛け合い、必要であれば、母体が医療法人のため、看護師へ連絡、相談を行い、迅速な対応に努めている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	必ず薬剤情報提供書へ目を通し、服薬について、理解することにより、副作用、異変などないか個人記録に記入することが出来る為、日々の状態の把握が行える。受診の際には、ホームで作成している。ケアチェック表を持参している。		職員により、能力が違う為、全職員が理解出来るよう、取り組んで行きたい。(新人職員など)
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	青汁牛乳の飲水や、体操、散歩、水分摂取など、食物繊維の多い食材を取り入れることにより、自然に排便があるよう工夫している。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、個々に合ったケアを行い、口腔内の確認、状態把握に努めている。清潔保持の為に、歯ブラシの回収・洗浄・保管、夜間の義歯消毒を、行っている。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人記録の記入や、毎日の水分、食事量、排泄など、日々の状態を把握することで、個々にあわせた支援を行っている。栄養面は、定期ごとに医療法人の栄養士からアドバイスがある。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	研修で得た知識を、ホームに持ち帰り、マニュアル作成を行い、全職員で周知し、予防や感染症が発生した際には、統一した対応が行えるように、している。		外部からの感染が主な為、ユニット入口に、消毒液の設置は、行っているが、声かけが不十分な為、徹底して行きたい。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材、手洗い、調理マニュアルに基づき衛生管理を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門扉や、玄関を施錠行うことなく、開放することで、安心して出入りは行えている。	親しみやすいディスプレイを、考えて行きたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	三度の食事や、掃除、洗濯など、日常動作を、すべて一緒に行っており、自然な形で、五感に働きかけている。	建物が普通の民家ではなく、施設的なため、温かみのある、空間作りをしていきたい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いの場所で過ごせる空間作りを行っており、自由に気の合うもの同士が、過ごされている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	アセスメント時に、家族、本人より、趣味や、好みについて問い、入所される際に、新しいものを購入されずに、昔から使われていたタンスなどの持参をお願いしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は常時行っている。常に外気温と5度程度の温度差に設定している。又、訴えがある際には、調節行い、こまめに訪室し、体調観察、状況把握等行っている。	職員の感覚に合わせるのではなく、ご利用者の体調に合わせるよう、配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	新設当初では足りない部分の手摺の設置や、危険部位には蛍光テープを貼る、などの対応を行い、安全に配慮している。	ヒヤリはつとを活かしながら、安全で、自立した生活が過ごせるよう、配慮していきたい。
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	排泄などの失敗時には、他利用者へ気付かれない様配慮している。又、スタッフは状況把握を常に行い、表情観察や、行動の把握に努めている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	植木の手入れ、水やり、洗濯物など活用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム和み
所在地	周南市大字湯野4298-1
電話番号	0834-82-1010
開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (8 月 現在)

ユニットの名称	ポッカポカ
ユニットの定員	9 名

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>グループホームの特性を、地域の方や、利用を望まれている方に、知って頂ける機会を持ち、望まれていることを知っていくことから始める。(中学生体験学習など)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をもとに、管理者、ケアマネ、各ユニットリーダーで会議を開催し、グループホームの意義や、考え方を元に、個々の支援をどのように行えばいいのか即座に話し合い、各ユニットにて評価を行った。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に一回開催し、利用状況や、施設内での行事等の報告を行い、ご家族や民生委員の方からご意見を頂き、これからのサービスに活かせるように努めている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	取り組みはなされていない。	市担当者とのサービスの質の向上に向けた取り組みの検討を行う。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者が、勉強会には参加しており、現時点では、必要な方が居られない。	必要が生じた場合の対応方法を学んでおく。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について学び事業所内で虐待が見過ごされないように全職員で注意を払っており、虐待は行われていない。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	アセスメント、契約時、契約解除時には、十分な説明を行い、家族の理解が得られるようにしている。	ご家族の方とのコミュニケーションを大切に、思いが汲み取れるように、努力していく。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	少しの時間でも1対1のコミュニケーションを図るようにし、スタッフ、利用者の区別なく、共同生活者となるよう、雰囲気作りを行っている。介護記録の中にも、本人の言葉を残すようにし、ケアプランに生かしている。	自然な形で行っていききたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	金銭管理の状況や、体調の変化、日々の様子を、各担当者にて記載し、毎月、家族へ送付している。職員の異動についても、ユニット新聞の中で、報告を行っている。状態変化あった場合には、即座に電話連絡行う。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	いつでも要望時には、情報開示行っている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関、事務所前に苦情相談窓口を設置し、いつでも苦情等の対応ができるようにしている。3ヶ月に1度の担当者会議の際、家族の思いを聞くための話し合いの時間を持ち、受け止めるようにしている。医療法人の相談室にも窓口を置いている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する事、利用者状況、サービスの実情に関し、必要時職員の意見の聞き取りを行い反映させている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況によって、勤務時間の変更を行い、夜勤帯などの職員確保については、急な利用者の対応も出来るよう、十分に調整行っている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	自己都合による退職もあり、職員の入れ替わりがあるが、職員からの要望を十分に聞き入れ、勤務体制の調整を図り、利用者へのダメージを最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各自の立場、景観や習得度の段階に応じた勤務内外部研修参加を行っている。新人職員に関しては、各ユニットリーダーについて支援を学んでいる。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	ユニットの特性を見て、多様な資質を持った職員配置し、必要であればご家族へも説明行いながら、移動もしている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会の勉強会や、近隣のグループホーム同士の研修会、外部研修へ参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		目標評価制度の導入の検討。 各種講習会へ全員参加のための体制の構築。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		賃金テーブルの見直し(給与体系)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		毎日の生活の中で、蜜に会話ができ、本心が開けるような関係作りができるよう努める。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		家族の理解を得ながら、利用前の対応について、進めていきたい。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		運営推進会議などを利用し、福祉施設の利用状況の現状と、利用希望者の把握に努めたい。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族の理解を得ながら、利用前の対応について、進めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		出来ることへの過剰支援を行うことがあり、利用者の生きることへの感性を大切にする為にも、本人自らの主体性が生きてくる支援方法を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		利用者の方から、家族へして差し上げられることが何かないのか考えている。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		利用者の方から、御家族へして差し上げられることが何かないのか考えている。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		職員は常に利用者に関わり、利用者同士が自然に助け合えるよう、場面の提供を行っている。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		電話や訪問など行ない、その後の様子を伺っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		全職員が対応できるようにしたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		日々の生活の中で、コミュニケーションを、より多くとっていける体制を作るために、業務内容の変更を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に一度、カンファレンスを開催し話し合っている。又、担当職員や家族参加のもとに、担当者会議を開催し、ご家族の意向や課題などを話し合っ、介護計画の作成を行っている。	話しをする事で、家族との距離感が近くなるので継続したい
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画期間に応じて1ヶ月ごとに評価を記入し、見直しを行っている。又、利用者に状態の変化が見られた時にはその都度関係者で話し合いの場を設けて、新たな介護計画を作り直している。	職員間の情報交換にて、変化に敏感になることで配慮し計画作成していきたい
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録にケアの実践の様子、対応方法、又結果などを詳しく個別に記入することで、利用者の様子を変動性勤務でも把握できるように情報を共有し、見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体が医療法人のため、緊急時の対応として、短期入院など御家族やドクターと話し合いの上、行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を定期に開催し支援している民生委員、警察官、市役所の福祉課、利用者家族参加の元、2ヶ月に1度開催している。	運営推進会議を行うことで、グループホームの特性を、地域の方や、利用を望まれている方に、もっと知っていただけるような形をとっていききたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	希望があれば、いつでも受け入れの態勢をとっている。又、和みでの生活の様子や、認知症の相談窓口の連絡方法などを盛り込んだ新聞を作成し、公民館に掲示させていただいているが、地域への開放へは至っていない。	グループホームの特性を、地域の方や、利用を望まれている方に、もっと知っていただけるような機会を持ち、望まれていることを知っていくことから始めていく。(中学生体験学習など)
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他施設の要望に対して、施設との連絡調整を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		日々、状態が変化していく中で、本人にとってベストな環境がグループホームなのか、他機関なのか連携の中、支援を考えていく。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々職員間で情報交換し、プライバシーの確保をしている。他者には、支援していることが分からない声かけに努めているが、全職員には至っていない。</p>	<p>全職員が対応できるようにしたい</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>希望の表出や自己決定できる方は、声かけ、会話の中で納得しながら暮らしている面があるが、認知症の為、その時々状況に応じ支援している。</p>	<p>意思表示でき、自己決定できる支援に努めたい</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>やってみようと思える声かけによって、できる力を損なわず支援できている。家族より「そんなことが出来るのですか」と聞かれる事がある。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ケアプランに取り入れ、日々のその人らしい暮らしができるように支援するようにしている。自己主張できる方はわかりやすいが、出来ない方には職員間で情報交換し支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容は月末に訪問美容師がこられている。身だしなみなどの整容は支援できている</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一緒にやってみようと、いう気持ちになる声かけを日々考え、利用者とともに、一緒に施行することで、食事を楽しめていると思われる。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲酒・喫煙は入居者には居られない。飲み物は色々な種類を購入し飲用していただいている。おやつは入居者に喜んでいただけるように季節のものを用意したり、手作りなどしている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>時間を見ての排泄誘導する事で排泄パターンを把握し、失禁に対し清潔保持の為にパットやナブキンで対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できるように準備はしているが、体調や状況に応じ対応している。時間に関しては、好きな時間に入浴をいただいている。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一人ひとりの状態を知る事で安眠休息の支援ができています。就寝や起床や休息等の気になる場合ケアプランに取り入れ施行できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	センター方式を活用し、生活歴の把握することで、支援するが認知症で出来なくなっても、出来るように場面づくりの提供し、スタッフ間入することで、共に行動して楽しむは、支援につながっていると思われる。		全職員が対応できるようにしていきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状況に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症の為、お金が大切と思うが、使う事は、本人様にお金を預けていないので、必要時に職員同行し、職員見守りの中使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者によって、散歩することで、気分転換になる為、毎日施行できている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別での外出支援は、実施できないが、多人数の利用者とのドライブや車での買い物機会を作り、りんご狩りなどの遠方への外出は、御家族協力の元外出している。		個別支援を考える。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、電話の取次ぎや手紙の代筆をしている。		家族からの手紙が主であるが、利用者の方から誕生日のお祝いメッセージなどを郵送していく。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも時間制限無く、自由に来訪できるように支援している。来訪の際は、近況報告をさせていただき、談話している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	開設してから、体調を崩された利用者の方を心配されて、何度か付き添いをされたり、遠方の家族の方が宿泊されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年3回の花見、夏祭り、クリスマス会を開催し、入居者と家族が楽しめる企画を考え参加していただいている。その他、利用者の誕生日に合わせて、家族参加のもと、誕生日会を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する講習参加にて全職員へ徹底し、身体拘束抑制を行わないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が、利用者に対する心理的な不安、閉塞感など弊害を理解し、ドアに鈴をつけるなど、工夫を行い、所在確認の徹底を図ることにより、施錠は一切行っていない。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在確認は常に念頭におくようにしているが、時にひやりとすることがあるので、職員間で声かけしあい、所在や様子を把握するように努めている。		職員により、能力が違う為、全スタッフがお互いに安心して、任せ、任せられるように取り組んで行きたい。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険性や注意の必要なときは、職員の見守りの中、使用していただき、使用後は保管場所に戻すようにしている。		全職員が対応できるようにしていきたい。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の危険性をしっかりと把握し、未然に防ぐ為の情報交換を常にして、事故防止に努めている。		全職員が対応できるようにしていきたい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	他グループホームとの勉強会にて、ドクター研修への参加や、次グループホームにてマニュアル作成し、応急処置、緊急時に備えているが、定期的な訓練は行っていない。		全職員が対応できるようにしていきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	インシデント、アクシデントは書類の提出や、必ず全職員にて対応を考え、改善に努めている。		ひやりはっとの認識の徹底。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		運営推進会議を利用し、災害時、地域の方の協力が得られよう、どのように交流を図っていけばよいか考えていきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		職員により、能力が違う為、全職員が理解出来るよう、取り組んでいきたい(新人職員など)
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		外部からの感染が主な為、ユニット入口に消毒液の設置は行っているが、面会者へ手洗いの声かけが不十分な為、徹底していきたい。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門扉や玄関を施錠せず、開放することで、安心して出入りはできている。	親しみやすいディスプレイを、考えていきたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	花や貼り絵、置物などで、生活感や季節感を目からも、感じられるような工夫をしているが、利用者の中には、ホーム内のもものは、すべて自分の物と思い込み、居室への持ち帰りがある為、難しいのが現状である。	職員同士アイデアを、出し合い工夫していきたい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の方が、望まれる場所に、ソファーや椅子を配置するなど、空間作りを行っている。	段差がある為、和室の活用が、なかなかできていないが、目で見て楽しめる、空間作りを行う。
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、馴染みの物をなるべく多く、持参していただいている。特に位牌や、信仰されている御札等を置かれる事で、安心されている。	家族の協力の元、家庭的な雰囲気を、味わえるような居室作りを、していきたい。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝の掃除には、必ず換気、後は必要に応じて行っている。温度調節も各居室のエアコンで、外気温と温度差がないように、配慮し、利用者の体調に応じて調節している。	職員により、能力が違う為、全職員がお互いに安心して、任せ、任せられるよに取り組みしていきたい(新人職員など)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下やトイレ等の手すり、呼び出しブザーを設置し、対応しているが、身体機能に応じて、ベットの電動ベットを、家族協力の元設置している。	ハード面で、資格になる部分が多い面は職員が、声掛け合い、カバーし合っている。
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個人個人に対して、行動パターン把握し、他者に気付かれないうちに、その時々にあわせ、職員が対応している。	職員により、能力が違う為、全職員がお互いに安心して、任せ、任せられるよに取り組みしていきたい(新人職員など)
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	食堂の履きだし口にベンチを置き、日光浴を楽しまれたり、日課にされていた草取りなど、自然な形で屋外に行かれています。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない